

## 令和6年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>○各教科等の目標をふまえ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた、学習指導を行う。</p> <p>○カリキュラム・マネジメントの視点をふまえ、教育課程の評価・改善に取り組む。</p>	<p>①子どもが主体的に学ぶために、よりよい授業づくりと授業改善を行う。</p> <p>②各学部の育てたい力をふまえ、教育課程のつながりと実施状況を検証する。</p>	<p>①-1 児童・生徒の「わかった・できた」を引き出す手立てをチームで検討し、授業づくり・授業改善の取組を、一人一授業公開する。</p> <p>①-2 一人一台端末の効果的な活用方法を検討する。</p> <p>②各学部の育てたい力と教育課程を全学部で共有し、実施状況を評価する。</p>	<p>①-1 より良い授業づくりを通して、主体的な学びを引き出すことができたか。</p> <p>①-2 一人一台端末を活用し、主体的な学びを引き出すことができたか。</p> <p>②めざす子ども像と育てたい力にむけ、教育課程のつながりを検証できたか。</p>
2	児童・生徒 指導・支援	<p>○一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の充実を図る。</p> <p>○教育活動を通して、人権の視点に立った学校づくりに取り組む。</p>	<p>①一人ひとりの障害の状況やニーズに応じた学習環境と支援体制を構築する。</p> <p>②互いに意見を伝え合う風通しのよい職場環境を構築し、人権を尊重した指導や支援を行う。</p>	<p>①-1 医療的ケアを必要とする児童・生徒の支援体制を確実に実施する。</p> <p>①-2 自立と社会参加に向けた通学支援を実践する。</p> <p>②子どもの見立て、支援方法を専門職を含めたチームで検討し、生活年齢をふまえ発達年齢に応じた支援を実践する。</p>	<p>①-1 安全に医療的ケアを提供する支援体制が構築できたか。</p> <p>①-2 保護者や関係機関等と連携し、ニーズに応じた通学支援を行うことができたか。</p> <p>②子どもの見立てに基づく支援方法を共有し、人権を尊重した指導・支援ができたか。</p>
3	進路指導・支援	<p>○一人ひとりのニーズや適性に応じ、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取り組む。</p> <p>○一人ひとりの自立と社会参加に向けた、主体的な取組を支援する。</p>	<p>①自己選択・自己決定ができる子どもに育てることをめざした進路指導を推進する。</p> <p>②教育活動を通し、職業観や勤労観を醸成する。</p>	<p>①自己実現に向け、進路選択・決定ができるよう、情報提供や体験・実習のコーディネートを段階的に進める。</p> <p>②生活年齢に応じ、役割を担うことや、地域に貢献する活動を計画的に実施する。</p>	<p>①本人・保護者、教職員への情報提供、体験・実習等のコーディネートを通して、主体的な取組が支援できたか。</p> <p>②教育活動を通して、職業観や勤労観の醸成を導き出せたか。</p>
4	地域等との協働	<p>○学校と地域の双方で連携・共同するための組織的・継続的な仕組みを構築する。</p> <p>○地域における特別支援教育のセンター的機能の取組を推進し、共生社会の実現に向け取り組む。</p>	<p>①地域との繋がりを進め、教育活動等を通じて共生社会の推進に貢献する。</p> <p>②地域における特別支援教育のセンター的機能の取組を推進し、共生社会の実現に向け取り組む。</p>	<p>①地域や関係機関等を等と連携し、共生社会づくりに貢献できたか。</p> <p>②地域のニーズに応じ、地域の特別支援教育の専門性を高めることができたか。</p>	<p>①地域や関係機関等と連携し、共生社会づくりに貢献できたか。</p> <p>②地域のニーズに応じ、地域の特別支援教育の専門性を高めることができたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>○地域と連携し、安全・安心な学校づくりに取り組む。</p> <p>○子どもと向き合う時間確保のために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。</p>	<p>①災害時の対応に関するマニュアルを見直し、関係機関との連携を構築する。</p> <p>②意識改革・業務のスリム化・効率化を図り、チームで遂行することにより、働きやすい職場環境を構築する。</p>	<p>①-1 災害時を想定した実働的な対応マニュアルとなるよう、実践を通して見直す。</p> <p>①-2 関係機関や地域との連携を構築する。</p> <p>②会議の効率化、文書の簡素化、業務のスリム化を進め、ノ一残業デーを徹底する。</p>	<p>①-1 実働的なマニュアルに改定できたか。</p> <p>①-2 関係機関や地域との連携を構築できたか。</p> <p>②-1 児童・生徒について話ができる時間が増えたか。</p> <p>②-2 時間外総労働時間を短縮することができたか。</p>